



NO.224

全日音研会報

# 音楽教育

令和4年6月発行

<http://www.jsme.net/>

全日本音楽教育研究会  
事務局長 小松 康裕

## コロナ後の全国大会開催方法に関する意見・要望調査 ～全日音研本部・高等学校部会各支部長にご回答いただきました～

政府は先に「屋外で会話をしない状況であれば、マスク着用の必要はない」との考え方を示しました。また、パッケージツアーの外国人観光客の受け入れ再開するなど、コロナ以前の生活復帰に向けて期待を感じつつ、再拡大への心配も拭えません。

一方、学校教育活動での日常的感染防止や、多くの教育関係者が集まる各教科研究大会等での自主的な配慮や対策は、今後も長期に渡り求められることが予想されます。

全日音研本部では、コロナ禍での全国大会、各地区音研大会等で様々な工夫を重ねて来られた関係者のご努力を踏まえて、全日音研本部と同高等学校部会支部のそれぞれ47支部の支部長先生対象に標記の調査を行いました。

1学期中には膨大なご意見の集計を行い、全日音研本部の〈コロナ後の全国大会開催方法に関するガイドライン：案〉策定の貴重な参考意見とさせていただきます。

本年度11月開催の全国大会山口大会前日(10/31)開催の本部全国理事会に上記のガイドライン(案)を提案し、ご審議いただく予定です。

調査集計ができましたら各支部長先生にお送りします。各支部で話題にしていただけなら幸いです。本会報では調査項目1番のご回答から一部をご紹介します。

令和3年度各地区音研大会では、オンラインでの授業公開等を取り入れて成果を得られました。今後の全国大会でのオンライン活用の形態について一つを選び、その理由をお答え下さい。

※ 回答の一部を要約しております。

- ① 対面通常開催を基本とし、感染再拡大等の発生時にオンライン開催を検討する 【29】
  - ・音楽科授業はライブ感、空気感が重要。授業公開を行うのであれば対面授業公開が原則。
  - ・育成する資質・能力や評価を中心に据えた授業公開ならオンラインでも開催可能。授業での生徒の活動や様子の重視なら対面実施になる。主催側が意志決定するものとする。
  - ・(感染状況の)先が見通せないが、対面形式でのコミュニケーションの否定は、芸術教科である音楽科にはそぐわない。「元に戻る」道をのこして検討をお願いしたい。
- ② 公開授業などオンライン公開のプログラムを決め、オンライン開催を統一的に実施 【4】
  - ・「終息」が見込めない間は、対面の可能性を待ちながら、オンライン開催の対応方法も視野に入れた準備をする先生方の労力は大変である。
- ③ オンライン開催のプログラム(形式)は定めず、オンライン(ハイブリットを含む)開催を推奨する 【10】
  - ・対面開催とオンラインを組み合わせた〈ハイブリット型〉を予め検討することで、社会情勢に対応でき、状況に応じて多くの先生が参加しやすくなる。
  - ・感染状況の継続で、通常開催への参加者減少が想定されます。自由度のあるオンライン開催により、新たな大会開催の工夫や発展が望める。

# 令和4年度全日本音楽教育研究会全国大会山口大会（総合大会） 第53回中国・四国音楽教育研究大会山口大会

開催日程 令和4年 11月1日（火）2日（水）  
大会主題 楽しむっちゃ！音楽 ～響きあおう 感動のきずなで～  
開催時程 1日目：午前各部会発表 午後ワークショップ、パネルディスカッション  
2日目：8時50分開会 ～ 13時閉会予定  
開催会場・開催内容は全日音研ホームページ掲載中の〈第一次案内〉をご参照下さい。

## ◇ 第二次案内は、7月1日（金）公開予定です。

全日音研小・中・高等学校部会各支部のご協力で、第二次案内は支部内各学校にメールアドレス添付で配信していただきます。また、各部会のホームページからもダウンロードしていただけます。参加申し込みもウェブで行っていただけます。

## ◇ 全日音研本部全国理事会 大会前日10月31日（月）15時30分開会

本会則4頁に掲載いたしました、令和4年度の本部各支部長先生が〈本部理事〉をお勤めいただいております。（本会会則第8条第1項）大会前日からの参加となりますが、ご出席方よろしくお願い申し上げます。

目下、通常対面開催を予定して着々と開催準備が進んでいます。  
小学校部会から大学部会までの総合大会に幼稚園部会も加わり、足掛け3年ぶりとなる全国大会対面開催となります。公開保育・公開授業・研究発表に加え、5講座の多彩なワークショップと大学部会ではパネルディスカッションが開催され、校種を越えた研究機会が準備されています。  
通常開催ができなかった3年間で、社会情勢や学校教育環境は大きく変容しました。コロナ禍での景気低迷に、深刻なウクライナ情勢は急激な物価上昇を招き、準備段階を含む児童生徒等の運搬費、GIGAスクール構想の進展で児童生徒個別タブレットの活用で授業会場のWi-Fi環境整備に多くの費用を要します。  
コロナ禍の音楽教育の制限を乗り越えた全国の関係者が、歴史と絶景とグルメの山口で一堂に会し、新たな我が国の音楽教育を語り合う！そんな全国大会を支えるためにも多くの皆様の参加をお待ち申し上げます。

## 全日音研のご紹介 その2

## 前号からこの会報でご紹介しております

- 会の目的は何ですか** : 会則の第2章目的に「本会は、音楽教育に関する研究を推進し、わが国音楽教育の向上発展に寄与することを目的とする」とあります。目標の「音楽教育」は学習指導要領に準拠した小・中・高〈音楽科教育〉の意味と、大学に於ける音楽科教員養成・個々の会員の幅広い〈音楽教育〉の意味の両方を指しています。
- 支部組織が複雑で分かりにくいのですが** : 十分なお理解がいただけておりません。小学校・中学校・高等学校の部会ごとに「支部」をもっており、更に本部も「支部」をもっています。それぞれに支部長・事務局長の選出をお願いしております。
- 活動費はどのように得ているのですか** : 小学校：各支部から一律1,5000円の会費徴収（東京都は都小音研から別額を徴収）。  
中学校：支部2,000円と1校1000円の会費を支部単位で徴収。  
高等学校：個人会費7000円（支部単位でまとめて納入）徴収。  
大学部会：これまで加盟大学ごとに10,000円の会費をいただいておりますが、個人会員制移行に伴い個人会費制（金額未定）を今年度山口大会部会総会で提案し、ご審議頂きます。 【何れも年額】

## 令和4年度（全日音研第27期後期）就任の新副会長ご挨拶



ごあいさつ

全日本音楽教育研究会小学校部会長 玉野 麻衣  
(東京都大田区立調布大塚小学校長)

令和3年度の小学校部会総会において、小学校部会長をご承認いただきました。各支部長・事務局長の皆様方からのお力添えをいただきながら、音楽教育の充実に寄与してまいります。よろしくお願いいたします。

さて、「OECD Education 2030プロジェクト」では、「私たちの社会を変革し、私たちの未来をつくり上げていくためのコンピテンシー」として、「新たな価値を創造する力」「対立やジレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」の3点が示されています。他者との協力と協働により既存の知識から新しい知識を生み出すことを通してイノベーションは引き起こされるようになること。矛盾した考えや相容れない考えや立場についても、それらの相互のつながりや関連性を考慮しながら、短・長期的な視点を踏まえて、より統合的な形で考え行動していくこと。そして、それらは、社会に対しての責任ある行動が前提にあること。音楽教育にあっても、この学習の枠組を考えていくことが大切ではないかと考えています。これからの未来を生き抜く子供たちに必要な資質・能力を、音楽を学ぶことで身に付けることができているのか、ファシリテートする教師が深く理解し授業改善に生かすことができているのか、いつも考えながら研鑽を積んでいきたいと思えます。

令和の日本型学校教育を担う私たちにも、個別最適な学び・協働的な学びが必要であること、自律的な学習者として学び続けることが求められています。そして、本会がその学びの場であり続けることを期待しています。



教育改革の新しい時代に

全日本音楽教育研究会高等学校部会長 玉井 操  
(東京都立美原高等学校長)

令和4年度から高等学校の新学習指導要領が年次進行で実施されました。新時代に対応した、新しい学校教育の在り方が求められるこの時期に、高橋基之前会長から高等学校部会長という重責を引き継ぎました。音楽教育のさらなる発展のために微力ながら力を尽くして参りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、未だ収束の目途がつかない新型コロナウイルス感染症への対策が続く中、新学習指導要領では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現させていくことが柱として謳われています。評価についても指導と評価の一体化を目指した観点別学習状況の評価が導入されました。来たる持続可能な社会の担い手である児童、生徒の自律的な社会への参画を可能とするため、今回の改定に伴って授業改善への意識がさらに高まり、学校現場では「学び方」や「教え方」、そして「働き方」に実際に変化が見られ始めています。また、昨今 STEM (ステム) 教育即ち、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Mathematics(数学)に加え、Art (芸術)を含めた STEAM (スティーム) 教育という言葉がメディア等で使われるようになりました。米国発祥の新語ですが、GIGA スクール構想に基づく BYOD や ICT の利活用時代に、芸術教育の重要性を再認識させられます。

これからの新しい時代における新しい音楽教育の在り方を、音楽教育に携わるすべての皆様の弛まない議論を通して追究し、実践につなげて参りましょう。

令和4年度《第27期 後期》全日本音楽教育研究会本部役員一覧

本部常任理事			本部理事(本部支部長)		
職名	氏名	学校名(職名)	職名	氏名	学校名(職名)
会長	福井直敬	武蔵野音楽学園理事長	北海道	足立 教	札幌市立美しが丘緑小学校校長
副会長	玉野麻衣	大田区立調布大塚小学校校長	青森県	岩渕智恵	弘前市立船沢中学校校長
同	荒川徳子	府中市立府中第七中学校校長	岩手県	星 和子	宮古市立川井小学校校長
同	玉井 操	都立美原高等学校校長	宮城県	吉田知彦	仙台市立上杉山中学校校長
同	河野正幸	聖徳大学 教授	秋田県	大山 裕	秋田市立御所野学院中学校校長
理事長	荒川徳子	府中市立府中第七中学校校長	山形県	大沼清司	山形市立第九小学校校長
事務局長	小松康裕	武蔵野音楽大学 講師	福島県	大内伸一	福島市立下川崎小学校校長
事務局次長	菊本和仁	武蔵野音楽大学 講師	茨城県	久保田直人	水戸市立吉沢小学校校長
常任理事	峯岸敦子	世田谷区立八幡小学校校長	栃木県	由井 薫	宇都宮市立御幸小学校校長
同	山根まどか	稲城市立南山小学校校長	群馬県	大栗和美	太田市立綿打中学校校長
同	村田悦子	千代田区立和泉小学校校長	埼玉県	藤川英子	戸田市立美谷本小学校校長
同	宗像文子	足立区立扇小学校校長	千葉県	二階堂早苗	市原市立国分寺台西小学校校長
同	山中佳子	板橋区立天津わかしお小学校校長	東京都	角 康宏	葛飾区立大道中学校校長
同	金子陽子	板橋区立前野小学校校長	神奈川県	西田裕子	川崎市立宮崎小学校校長
同	大野知子	江戸川区立西小岩小学校校長	新潟県	石津 忠	魚沼市立堀之内小学校校長
同	笛木 毅	世田谷区立九品仏小学校校長	富山県	土田泰美	富山市立鶴坂小学校校長
同	佐藤隆弘	葛飾区立葛美中学校校長	石川県	今井 直人	白山市立美川小学校校長
同	野口大介	国分寺市立第四中学校校長	福井県	片山幹子	越前市王子保小学校校長
同	川崎靖弘	川崎市立井田中学校校長	山梨県	丸茂和也	甲斐市立敷島南小学校校長
同	角 康宏	葛飾区立大道中学校校長	長野県	石川 武	上田市立清明小学校校長
同	高山俊哉	横浜市立茅ヶ崎中学校校長	岐阜県	丸山真理子	恵那市立長島小学校校長
同	水江知子	東京都立城南特別支援学校校長	静岡県	渡辺英一郎	駿東郡清水町立南中学校校長
同	片桐あかね	東京都立つばさ総合高等学校校長	愛知県	若山由美子	春日井市立知多中学校校長
同	仲田賀一	東京都立千歳丘高等学校副校長	三重県	諸戸美香	四日市市立常磐西小学校校長
同	石丸昌延	東京都立青山高等学校副校長	滋賀県	八木佐登留	愛荘町立秦荘西小学校校長
同	北村由里子	東京都立駒場高等学校指導教諭	京都府	藤原哲也	京丹後市立久美浜中学校校長
同	岡村 繁	東京都立飛鳥高等学校主任教諭	大阪府	津田 毅	大阪市立東粉浜小学校校長
同	今村清孝	東京都立墨田川高等学校主任教諭	兵庫県	中條浩樹	姫路市立朝日中学校校長
同	毛塚みちる	都立東大和南高等学校主任教諭	奈良県	井上久世	橿原市立真菅北小学校校長
同	松本衣代	開智日本橋学園高等学校教諭	和歌山県	岩本浩志	和歌山市立加太小学校校長
同	古澤成樹	東京都立杉並高等学校主任教諭	鳥取県	安次里絵	米子市立福生中学校校長
同	井上雅文	東京都立三田高等学校主任教諭	島根県	飯塚由紀子	松江市立島根小学校校長
同	飯嶋紀子	都立南多摩中等教育学校主任教諭	岡山県	海野達也	岡山市立福田中学校校長
同	粕谷宏美	東邦音楽大学 副学長	広島県	高田玲子	広島市立安小学校校長
同	津田正之	国立音楽大学 教授	山口県	松本敏訓	下松市立久保小学校校長
同	工藤豊太	東京音楽大学 特任教授	徳島県	美馬大作	四国大学准教授
同	小佐野 圭	玉川大学 教授	香川県	村川絹子	高松市立新番丁小学校校長
同	森田恭子	武蔵野音楽大学 准教授	愛媛県	柿並陽子	伊予市立翠小学校校長
同	佐野 靖	東京藝術大学 教授	高知県	川添貴生	仁淀川町立池川小学校校長
同	加藤徹也	武蔵野音楽大学 教授	福岡県	池田いくみ	福岡市立筑紫丘中学校校長
監査	石橋 悟	江戸川区立清新第一小学校校長	佐賀県	熊本輝美	佐賀市立南川副小学校校長
同	内野雅晶	江戸川区立葛西小学校葛西中学校校長	長崎県	立本祐輔	長崎市立西北小学校校長
同	杉浦昭彦	東京都立片倉高等学校教諭	熊本県	倉田 斉	天草市立稜南中学校校長
同	春日保人	聖徳大学 准教授	大分県	望月美貴	大分市立神崎小学校校長
			宮崎県	橋口康明	宮崎市立生目台中学校校長
			鹿児島県	日吉 武	鹿児島大学教授
			沖縄県	長嶺加恵美	嘉手納町立嘉手納中学校校長